

酒々井町

郷土研究会会報

第99号

平成13年1月1日  
酒々井町郷土研究会  
広報部

二〇〇一年の

年頭に当って

会長 青木朝次

新年明けましておめでとうござい  
ます。皆様におかれましてはお変わ  
りなく御健勝にて輝かしい新世紀を  
お迎えになられた事とお慶び申し上  
げます。

旧年中は皆様方が力を合わせられ  
各事業にご協力下さり郷土研発展の  
ため御尽力戴きました。お陰で大過  
なく会長として務めさせて頂き深く  
感謝し厚く御礼申し上げます。

昨年終了した「御成街道を歩く」  
に続き、新しく「木下街道」に取り  
組みたいと思います。それに先立ち  
木下街道に精通されてる榎本先生に  
御講演をお願いしておりますので皆  
様の御来聴をお待ちしております。  
また記念すべき会報百号の発行も  
近くなりました。そして文化祭には  
新しい企画で参加する事にします。

迎春



暖冬の声が聞こえてきますがこれ  
からが寒さ本番です。一層御自愛下  
さいまして定期総会に御出席いただ  
けますようお願い申し上げます。

平成十三年元旦

「木下街道を歩く」

に寄せて

印西市 榎本正三

過日、酒々井の郷土研究会の方々  
から右主題に関し、正月号の会報の  
原稿と、二月の講演の依頼を受けま  
した。皆様のご熱心な心情にほださ  
れ、大任とは思いましたがお手伝い  
させて頂いたことになりました。

私は三十五年前の昭和四十一年から  
九年間、酒々井の中学校に勤務して  
おりましたが、当時お世話になった  
福田さんや青木さんを初め、郷土研  
究会の役員の方々にお目にかかり、  
往時が偲ばれ、懐かしさが込み上げ  
てまいりました。当研究会の生みの  
親である大先輩の相京さん・加川さ  
ん・沖田さんなどと町内を駆け回っ  
たことが脳裡に浮かび、ついきのう  
のことがのように蘇ってまいります。  
また郷土史に関心の深い中学校の  
生徒との町内の史跡探訪などの思い  
は尽きません。当研究会で史談会の  
講師をしておられる高橋健一氏もそ  
の一人で、思えば感無量のものでご  
ざいます。

さて、酒々井町郷土研究会では、  
「木下街道を歩く」の学習会を実施  
する計画があるようですが、主とし  
て江戸期における庶民を中心とする  
旅を復元するといった大変意義深い  
大事業を企画された当研究会の英断  
に心から敬意を表します。私が酒々  
井中学校にお世話になっていた頃、  
近隣の中学校から驚異の眼が向けら  
れていた「青雲祭」の一環としての  
二十キロの「ロードワーク」が連想  
され、酒々井の人々の心意気が読み  
取れます。その成功を切望して止み  
ません。

# 酒々井町内の遺跡散見

木内達彦

酒々井町は緑豊かな下総台地と満々と水をたたえた印旛沼、そして台地と印旛沼を結ぶ無数の谷津が育む自然に恵まれ、原始・古代より人々が住み続けてきました。その先人の足跡は所々かしこに遺跡として残っているのを見ることが出来ます。また、寺社・石仏・祭りには先人たちの祈りが伝わっています。

さて、酒々井町に人間が住み着き始めたのは、どの場所て何時のことなのでしょうか。平成十一年度に墨区の新沢地区で埋蔵文化財の発掘調査が行われ、新たな発見がありました。深い場所から数万年前の遺跡が発見されたのです。

今までの伊籬区や本佐倉区などから約一万五千年前の遺物が発見され、一番古い遺跡でした。酒々井の歴史が大きく溯る大発見でした。同様な遺跡は四街道の台地などでも発見されています。古い時代、人々は台地を生活の場として利用していたことがわかります。

その後、縄文時代以降には酒々井

町のそここに遺跡が認められるようになってきますが、縄文時代の半ばから後半にかけての墨区、伊籬区などの遺跡群で発見された縄文土器は質量とも素晴らしいものがあります。

弥生時代、古墳時代の前半に遺跡は減少しますが古墳時代後期に遺跡数は増加します。なかでも、古墳時代を代表する前方後円墳が本佐倉区「鬼塚」、酒々井区「狐塚」など数か所にありました。古墳は有力者の墓とされますが前方後円墳は特定の有力者の墓とされていますので酒々井地域にそれなりの有力者が住んでいたことになりそうです。

酒々井区「狐塚」からはきれいなガラスとメノウで作られた首飾りが発見されています。

また、酒々井区の蔵島横穴墓よりは発見された「銅鏡」は七世紀後半には仏教文化の影響を受けていた人物が酒々井に住んでいたことを物語っています。

墨の総合公園内に保存されている古墳は長方形をしていることから「長方墳」と呼ばれますが埋葬施設の近くからは八世紀初めに愛知県周辺で作成された首の長い壺が発見され、古墳時代が終わっても酒々井の地に有力者が住んでいたことがわかります。

奈良・平安時代の遺跡も数多くあ

りますが、現在の「ダイエー」敷地周辺から発見されている倉庫群跡は当時の豊かな生産を物語る遺跡です。

平安時代後期よりは武士の時代が始まります。この時期遺跡は急激に減少します。人々は多くの危険から身を守るよう台地の集落を捨て、谷津に点在するように住み始めたからです。このため台地からの情報は限られるようになり、古い文書や仏像が新しい知見を与えてくれます。

上岩橋長福寺などに安置されている仏像は平安時代末期の造立で、酒々井の人々が中央貴族の文化を取り入れていた証拠となります。

貴族の世の中から武士の時代へ変わる時、酒々井の歴史が一段と輝きを増していきます。この時期の記載はまたの機会とします。

追記  
先日、歴史を愛する者にとって悲しい事件が起こりました。旧石器時代の歴史の捏造事件です。歴史が「公」のものであることを忘れ、功名に走り私欲に負け歴史を捏造した事件でした。多くの人々に歴史に対して疑いの感を抱かせたことが悔やまれます。新たな世紀が始まりました。先人たちの貴重な財産である歴史と環境を子孫に引き継げるようにしていききたいと思えます。

房総方面見学記

会田秀雄

早朝七時思いもかけない濃霧の中バスは公民館を出発した。新車とあって車内は新鮮そのもの。何時消えるのか途中の景色も幻の中、八時半頃視界がひらけ見学会の気分になった。最初の見学は那古寺で養老元年、元正天皇の病氣平癒を祈願して行基がこの地の海から香木を得て千手観音を刻み祈念したところ効験ただちに現れ報謝にと勅願により那古山上に伽藍を建立されたといわれている。その後慈覚大師が止住され正治年間、秀円上人により真言密教の霊場となった。源頼朝・里見氏等の篤い信仰も寄せられた。元禄十六年の大震災で堂塔が全壊、宝暦九年に再建、坂東三十三観音の結願寺となっている。寺前よりの風光明媚な景色は晴天のせいもあって私の心を和ませてくれた。

十七年築総工費一億八千八百万円で三層四階との事でした。内部は別館展示室となつて里見八犬伝にまつわる人形、書物が展示されていたそうです。私は本館内だけを休みながら拝見した。館内は里見氏の古文書・刀剣・甲冑と那古観音の本尊である千手観音像・縄文土器等の歴史展示物で心に通じるものばかりであった。公園を後にして楽しみな昼食は夕日海岸ホテルで珍しい料理もあり堪能した。その後向かった先は同市藤原にある常楽山萬徳寺の釈迦涅槃佛である。和尚さんの説明が終わる頃私は杖を頼りに皆さんと合流した。昭和五十六年建立、出口珠飛作・体長一六メートル重さ三〇トンの大きな金銅佛で世界一とのこと、佛を三廻りして佛足に手を触れ拝すると足腰が癒されるとの事だった。最後は丸山町の石堂寺に向かった。同寺は那古観音から七年後に聖武天皇の勅願により神亀三年行基の開山と伝えられている。養老も神亀も農民の浮浪逃亡などが相次ぎ社会不安がつのる一方蝦夷・薩摩における反乱など支配階級の内部も動揺した時代だった。この支配者の動揺を切り

抜けようとした長屋王(天武天皇の孫)は藤原氏の陰謀により自殺に追い込まれた。いわゆる「長屋王の変」がそれで三年後には天平と改元される。このような時代に石堂寺が開山されたのです。その後いろいろな歴史があり里見忠義から寺領百石を安堵されるなどして天台の法灯を守り江戸中期まで安房地方の本山格として信仰の中心をなしていた。広々とした境内はこんもりと繁る木立ちに包まれ本堂・多宝塔・薬師堂の姿が脳裡に焼き付けられた。また客殿には波の伊八の扁額が一三枚程保存されていたのには驚かされた。もう一度ゆっくり拝観したいものです。役員諸氏、参加された皆さんのお陰で神佛に頂戴した一日を有意義に過ごさせて頂きお礼申し上げます。

九月二十九日の観察会で観察したミズガヤツリは間違いありません。メモした方は(?)を消して下さい。亀井



### 台東・橋場方面 見学会に参加して

箕輪光正

五月十四日飛び入り参加した酒々井町東部方面の神社等巡りに続き、本行事に参加してヒヨンな経緯から伝統と歴史ある本会に入会させて戴いたが早速の筆啓上の依頼に戸惑いを禁じ得ません。

九月八日昨日来の強雨も薄日が差し込む程に上がり、京成酒々井駅に集合したのは女性十一名男性四名総勢十五名のいざれ劣らぬ健脚揃いでした。

ラッシュに揉まれた三年前の通勤時代には窓外に目をやる余裕もあまりありませんでしたが、こうして仲間同志の談笑になにか心が洗われるようにアツという間に終点上野駅に着、日比谷線に乗換え私の故郷？と同じ呼び名の二つ目の駅三ノ輪に着。ここからが本日探訪するコースの始まりです。探訪箇所はいずれも台東区(竜泉・千束・東浅草・清川・橋場)内に所在しそれぞれが近距離に位置し効率よく探訪することがおぼしかったです。また行き交った地元のおばさんからは「何処からきたの？」

「ご苦労様」と暖かい声をかけられ下町風情が感じられた。下町におかしながらの面影を残し家内工業、住宅地、商業地内に今もきらびやかな建築を有する神社、お線香の煙が絶えない寺院や著名な学者や有名人がひっそりと葬られていて墓所が地元の人が違や行政に大切に守り継がれていることが読み取れました。これから先人が残してくれたこれらの文化遺産を後世に残し一人でも多くの人達に見聞されて欲しいと思います。行程的にも朝夕のラッシュ帯を避け早々に帰路につけ堪能できた見学会でした。一度はゆっくり下町探訪をとの希望も叶って今は満足感一杯です。

郷土研日誌					
月日	内容	数	月日	内容	数
9/22	編集会議	6	11/25	編集会議	4
25	編集会議	6	11/25	木下街道曳	5
26	印刷	6	12/ 2	運営委員会	22
28	発送	22	12/ 2	史談会	13
10/17	古文書学習	8	12/ 6	名勝探訪	42
11/ 8	房州方面	44	12/ 9	編集会議	4
13	研修下見	5	12/19	古文書学習	7
21	研修部会	13	12/20	編集会議	5

### あとがき

二十一世紀がついに始まりました。皆様はどのような新世紀をお迎えでしょうか。元氣に「新世紀を迎える」ことができるのは幸せなことではないかと思えます。二十世紀最後の去年は各地で地震・洪水・火山噴火などがあり、また酒々井では玉子のような電気がふり不思議な体験をしました。本会がふり驚きましたね。さて郷土研は会員皆様方の力強い協力のおかげで行事を無事に消化することができました。また会報も今号は99号です。皆様が楽しみにして下さるのを励みに頑張ってきました。これがこれからも皆様の期待に添えるように努力したいと思えます。郷土研行事への御参加を心からお待ちしています。

### 会計報告

房州方面	¥ 12.11.8
収入	242000円
支出	
(株)八街観光	223420円
諸雑費	11620円
残	6960円 (会計へ)

# 見学

## 案内



### 日帰り見学会 高尾・日野方面

#### 名勝探訪 銭洗い弁財天方面

一月二十一日(日)

雨天代替二月 四日(日)

初詣でシリーズも六回目となりました。

今年には鎌倉・銭洗い弁財天付近を探訪します。銭洗い弁財天ではお金を洗ってご利益を少しいただいております。近くは源氏山公園で頼朝公の銅像と対面してゆつくりと休息した後、鎌倉五山の第三位・寿福寺に寄ります。この奥の院には源実朝や北条政子の墓と伝えられるやぐらが並んでいます。この地はもと源義朝の屋敷跡ともいわれています。この寺の境内は非公開になっています。鎌倉駅に戻り、自由解散となります。時間のゆるす方は鶴岡八幡宮や小町通りなどを散策されてはいかがでしょう。

緑がきれいな時期、高尾山・高幡不動尊に行きましょう。

高尾山ではケイブルで終点まで行きながら、奥の院の不動明王に会いに行きます。古くは天平十六年(七四四)聖武天皇の勅願により、行基が薬師如来の像を刻み、当山に一字を建て安置し、東国鎮護の霊場としたのが開基とされます。節分に貴の花達が豆撒きに来るのでご存じの方も

高幡不動尊は関東三不動の一つで元木の不動尊と呼ばれています。当山の歴史は古文書等によれば大宝年間(七〇一〜七〇三)以前の草創とも、奈良時代行基の開基とも伝えられています。今を去る一一〇〇余年

前の平安時代初め慈覚大師円仁が清和天皇の勅願によって当地を東国鎮護の霊場として一字を建て不動尊像を奉安したのが始まりで、現在の不動堂は康永元年(一三四二)修復との銘文が残っています。修復と不動堂、仁王門とも関東まれに見る古建築で共に国の重要文化財に指定されています。

本尊は不動明王の木像座像で弘法大師の御作と伝えられ、両脇侍を従えて不動三尊として国指定の重要文化財になっています。

今回はお不動様めぐりとなりますが、まわりの山々の景色を眺めるのも素晴らしいと思います。多数の方の参加をお待ちしています。

#### 古文書あれこれ

古文書学習会を始めて一年になります。近世(江戸時代後期)の歴史を知る上で絶対必要な古文書、最初の頃は一字も読めませんでした。侯文にも馴れてきました。

「各様方御清栄被成御勤之儀御条珍重之義奉存候」というような定型的な文章はすらすら読めるようになりました。早速、歴博に行つて実力を試しましたが一行二行読めるよう

になると学習の励みになりました。今は中川の岡田家の文書を教材にしてますが島田長右衛門家の文書もたくさんあります。狼が仔馬をとるの牧士に鉄砲を持たせたり野馬土手の修復、勢子人足の問題等面白いのがたくさんあります。どうぞお楽しみ。

青木 朝次

郷土研行事案内 平成13年1月～3月

史談会	1月 休み	2月 3日(土) 13:30 公民館 「千学集と妙見実録千集記」 講師：高橋健一先生	3月 3日(土) 13:30 公民館 「千学集と妙見実録千集記」 講師：高橋健一先生
古文書を 読む会	1月 休み	2月 20日(火) 13:30 社会福祉協議会 「中川村の古文書より」	3月 休み
名勝探訪	1月21日(日)『銭洗い弁財天方面』 JR酒々井駅 7:00集合 雨天代替 2月4日(日) 費用 ホリデーパス 2040円 場合によりコース変更あり。弁当、飲み物持参下さい。 JR酒々井 — 鎌倉駅 — 佐助稲荷神社 — 大 行程 銭洗い弁財天 — 大 — 源氏山公園(昼食) — 大 — 寿福寺 大 — 鎌倉駅(自由解散)		
講演会	2月14日(水) 10:00～12:00 演題 「木下街道について」 講師 榎本正三先生(郷土史家)	会場 公民館視聴覚室 入場無料	
野草の会	2月16日(金) 『七草粥を食べる会』 受付 11:00 会費 700円 会食 11:30 定員70名 申込受付 1月28日(日) 1:00 (公民館ロビーにて)	会場 中央公民館 (手伝いできる方は 9:00迄に調理室に おいで下さい。)	
日帰り 見学会	3月23日(金) 『高尾・日野方面』 会費 6500円 定員 45名 申込受付 1月28日(日) 1:00 公民館ロビー キャンセル 実施日3日前まで 青木朝次宅へ 公民館 — 湾岸幕張PA — 中央道高井戸IC — 石川PA — 高尾山麓駐車場 — 大 — 清滝駅 — 大 — 高尾山駅 — 大 行程 高尾山薬王院・奥の院 — 大 — 高尾山駅 — 大 — 清滝駅 — 大 — 京王高尾山口駅(昼食) — 高幡不動尊(金剛寺) — 中央高井戸道IC — 湾岸・幕張PA — 酒々井	中央公民館 6:20集合 17:10着(予定)	
第25回 総会	1月28日(日) 中央公民館 開会 13:30 受付 13:00から(公民館ロビー) 会費 年 1000円 議題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成12年度事業報告及び決算の承認について</li> <li>・平成13年度事業計画案及び予算案について</li> <li>・その他</li> </ul> (同時に七草粥と日帰り見学会の申込を受け付けます) 総会終了後企画課長戸村氏より「未来の酒々井町」についてのお話を伺います		